

“はかる”技術で未来を創る



第68期 2020年9月期  
第1四半期決算説明資料

2020年2月3日

# 目次

---

1. 決算ハイライト
2. 2020年9月期 業績予想
3. はかる技術への取り組み

# 決算ハイライト

# トピックス

---

## 前年同四半期比

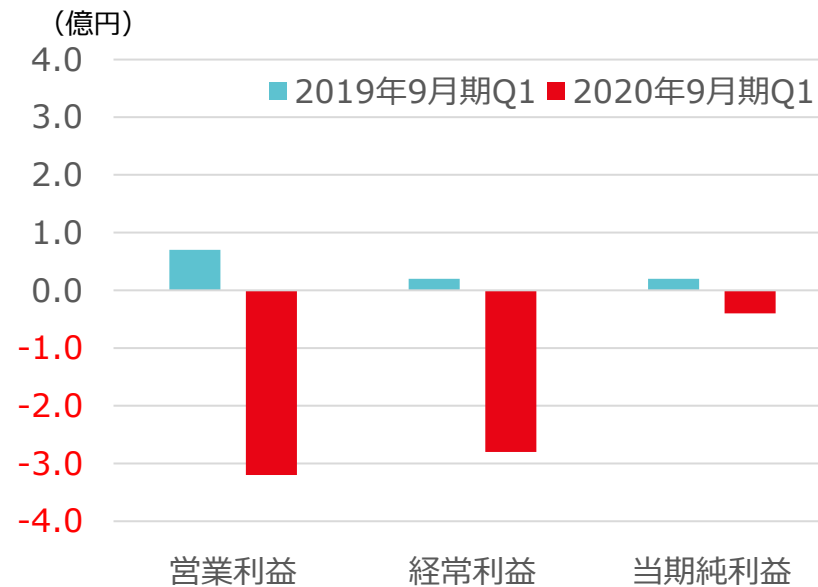
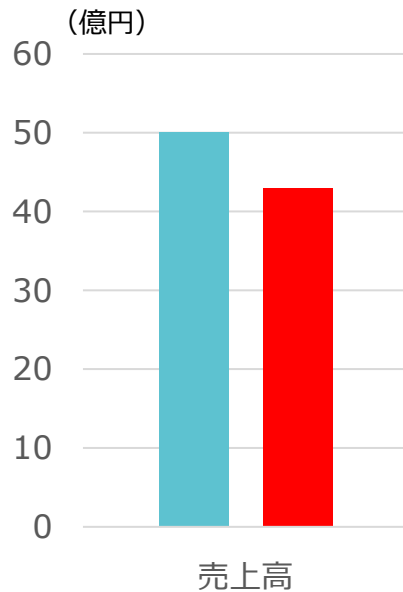
減収、減益も通期計画は予定通り

## 5Gビジネスは堅調

## 受注・受注残は前年同四半期比増

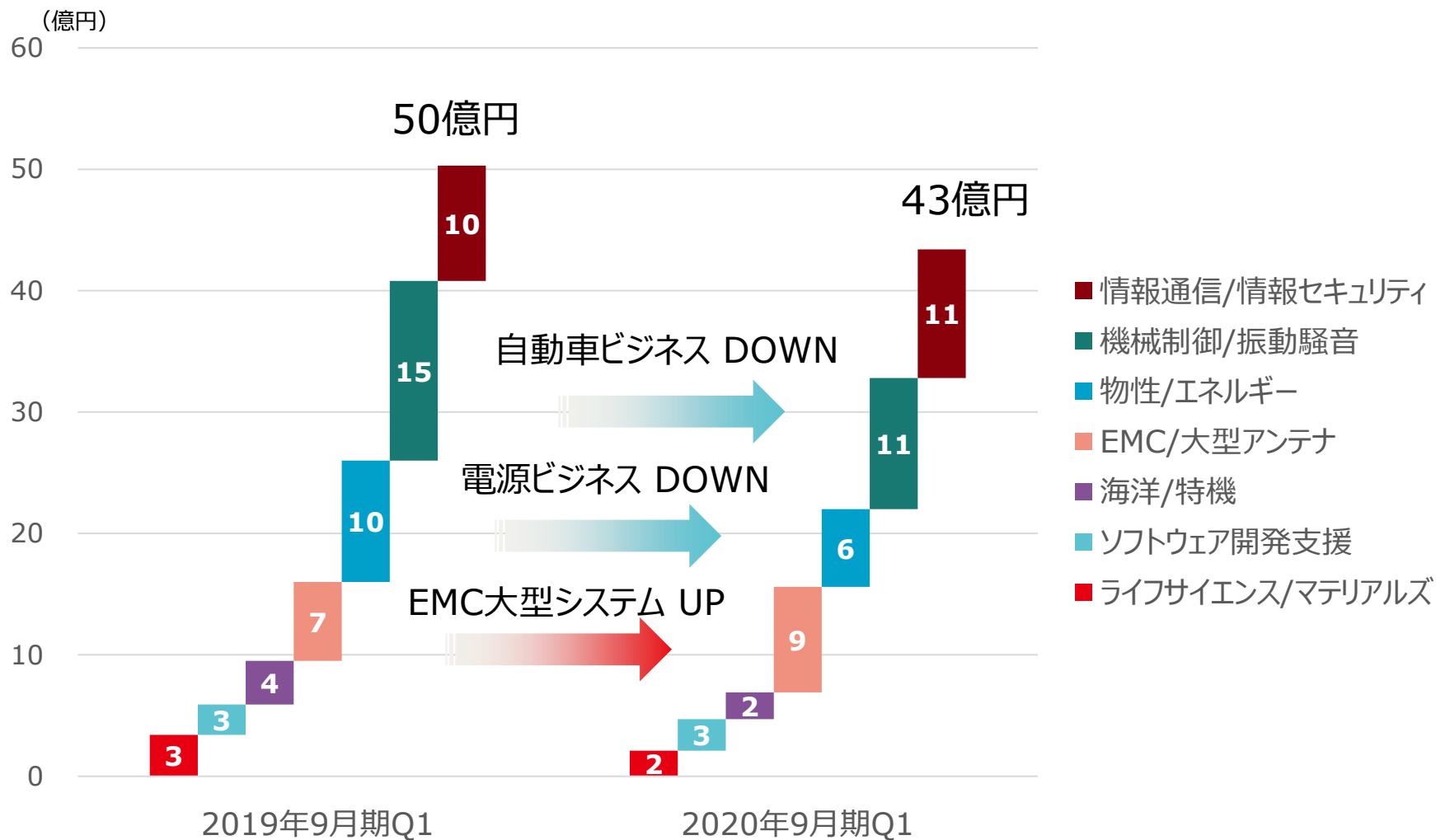
## 特益 政策保有株の売却益2.6億円

# 業績ハイライト





	2019年 9月期Q1	2020年 9月期Q1	増減額	増減率
売上高	50.7億円	43.7億円	△6.9億円	△13.7%
営業利益	0.7億円	△3.2億円	△3.9億円	－%
経常利益	0.2億円	△2.8億円	△3.0億円	－%
当期純利益	0.2億円	△0.4億円	△0.6億円	－%

# 売上高推移（セグメント別）

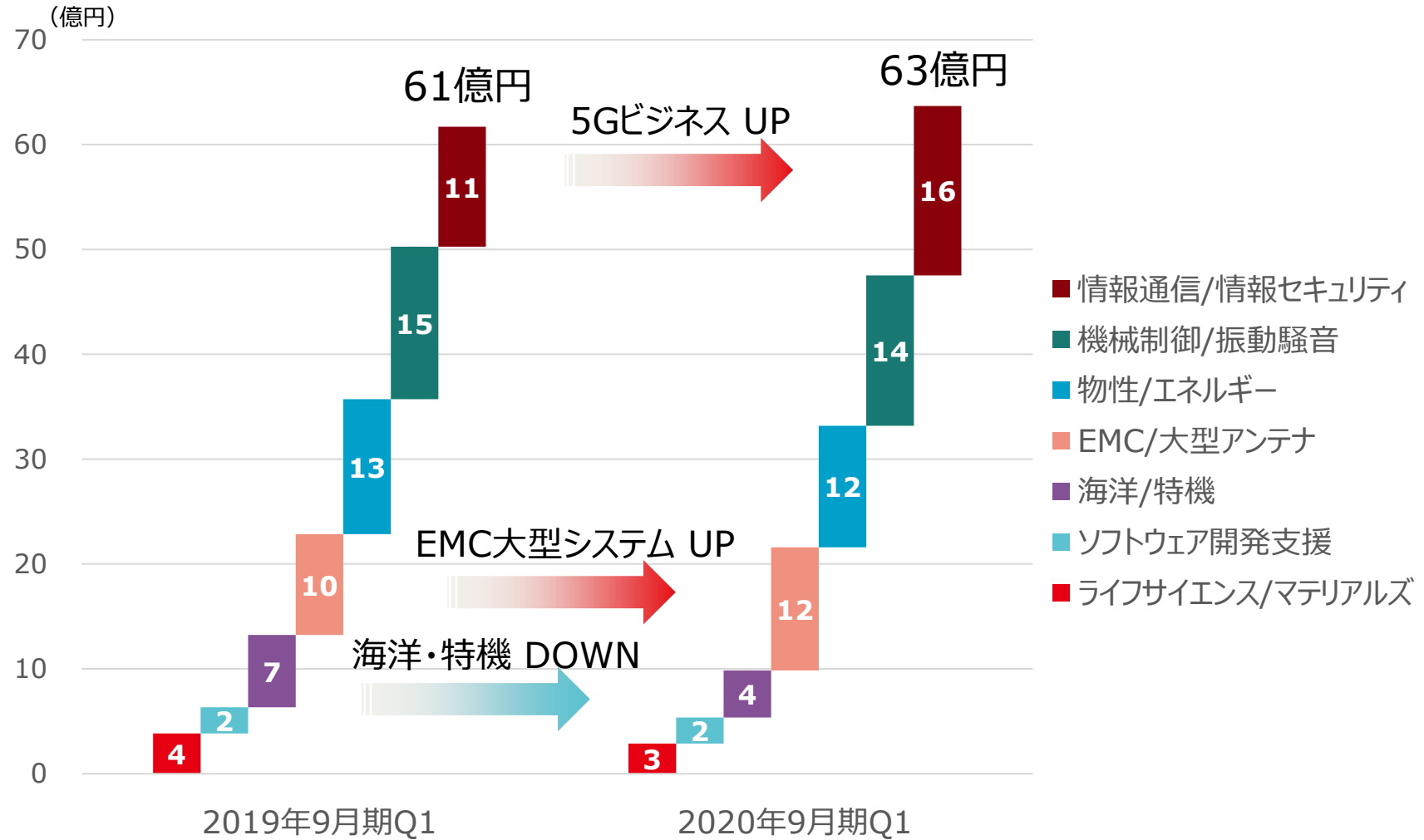


# 営業利益増減（セグメント別）

セグメント	2019年 9月期Q1	2020年 9月期Q1	増減
情報通信/情報セキュリティ	△1.2億円	△1.6億円	△0.5億円
機械制御/振動騒音	2.3億円	0.9億円	△1.4億円
物性/エネルギー	1.3億円	△1.0億円	△2.3億円
EMC/大型アンテナ	△0.5億円	0.4億円	+0.9億円
海洋/特機	0.7億円	△0.3億円	△0.9億円
ソフトウェア開発支援	0.2億円	△0.02億円	△0.2億円
ライフサイエンス/マテリアルズ	△0.2億円	△0.6億円	△0.5億円
全社費用	△1.9億円	△1.0億円	+0.9億円

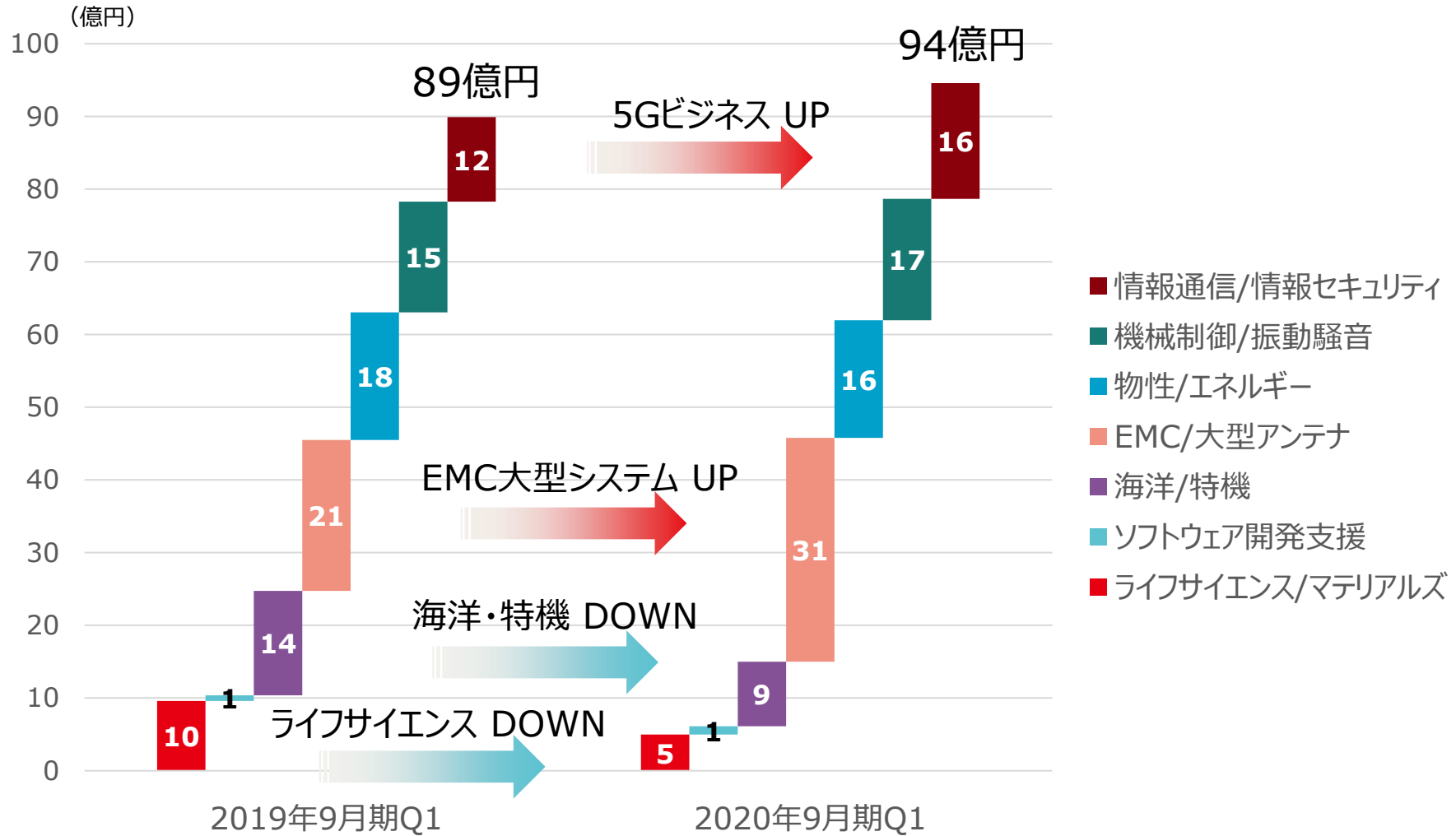
 電源ビジネス  
低調  
 自動車関連  
大型システム

# 受注高推移 (セグメント別)

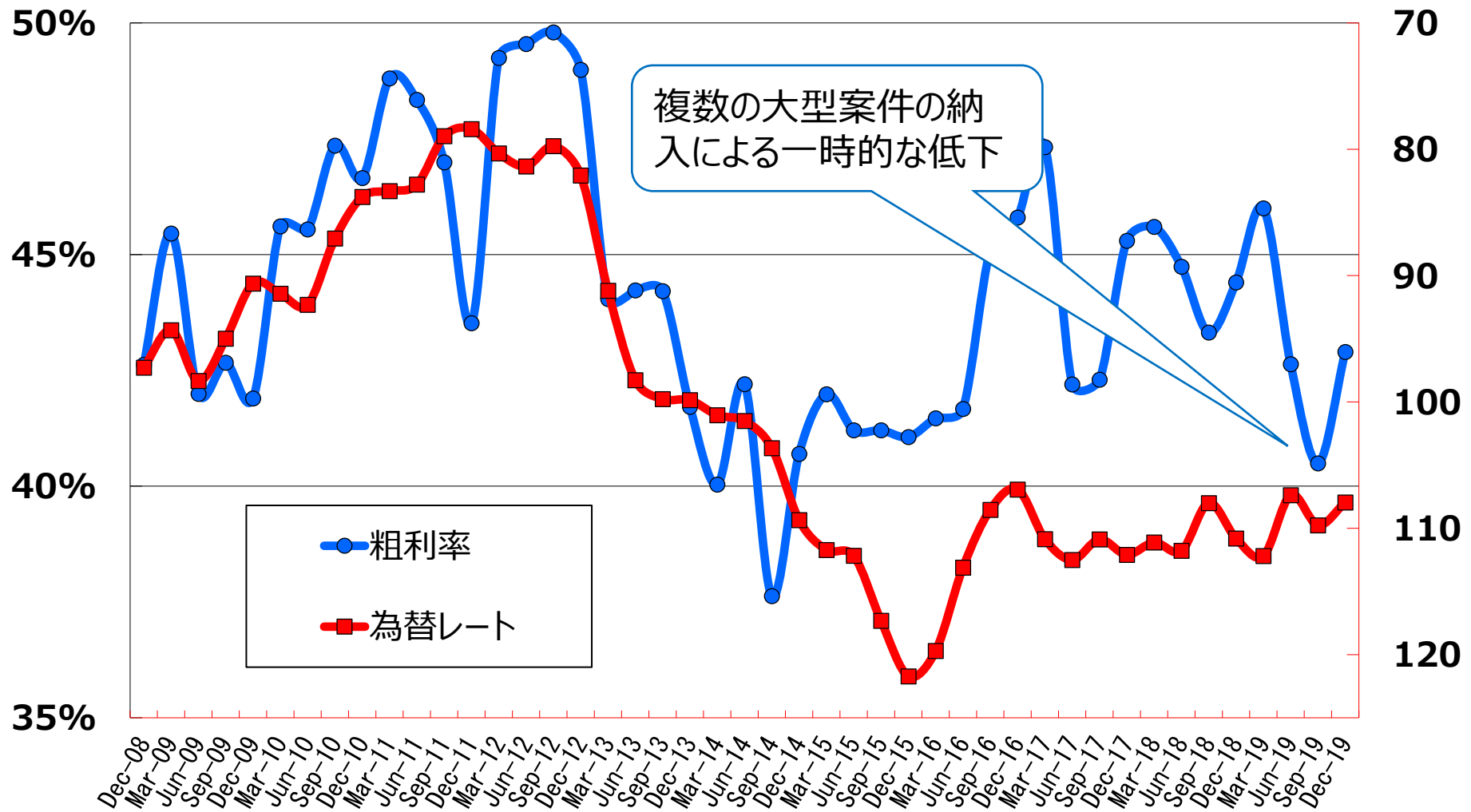




# 受注残高推移 (セグメント別)

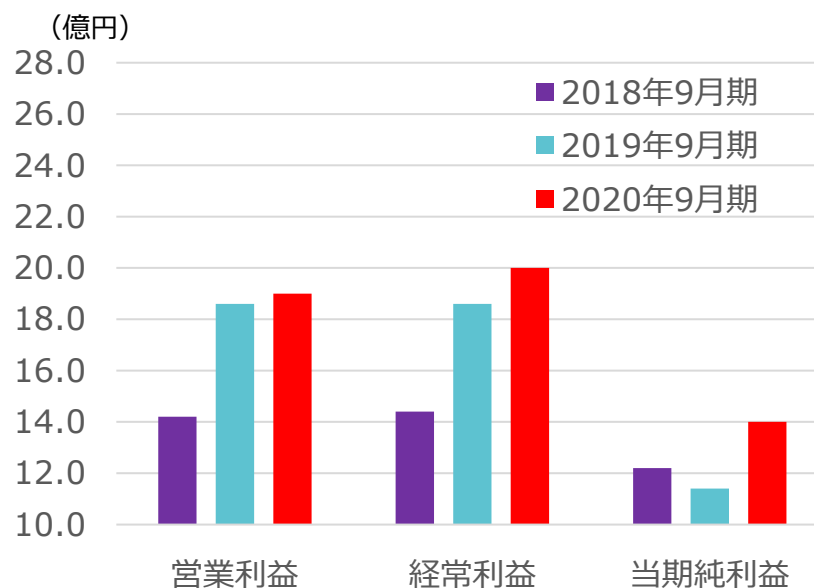
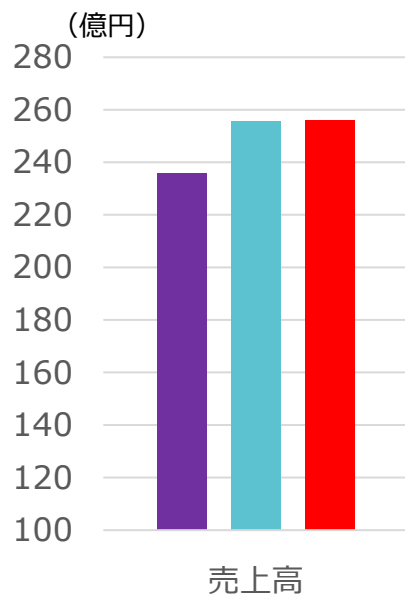


# 為替と粗利率



# 2020年9月期 業績予想

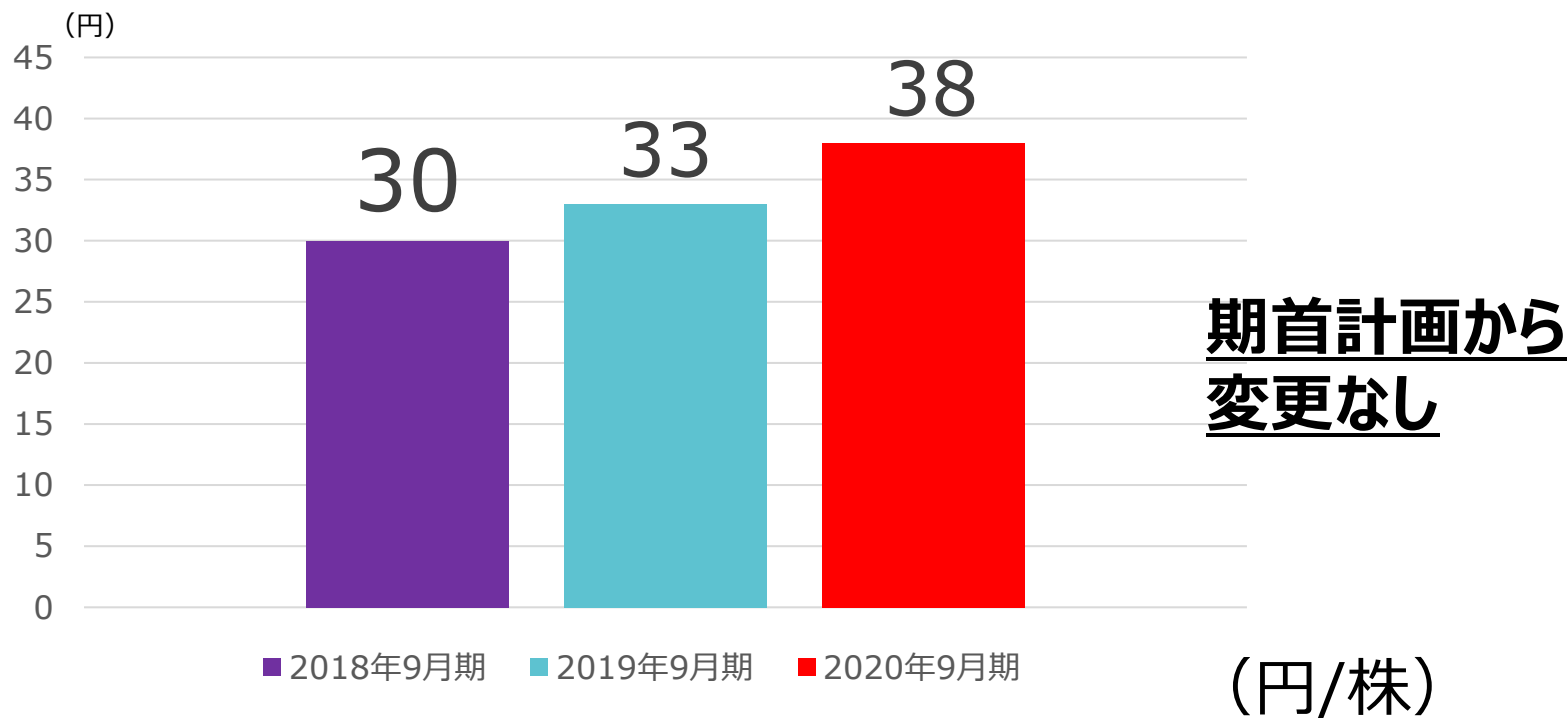
# 2020年9月期業績予想値



**期首計画から  
変更なし**

	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期
売上高	235.9億円	255.4億円	256.0億円
営業利益	14.2億円	18.6億円	19.0億円
経常利益	14.4億円	18.6億円	20.0億円
当期純利益	12.2億円	11.4億円	14.0億円

# 配当金予想



2020年 9月期	中間	期末	年間
	14	24	38

# “はかる”技術への取り組み

# 海外事業への注力

自動車開発向け動力性能評価用

**ハブ式シャーシダイナモメーター・システム**

米国オークリッジ国立研究所へ今期納入予定

(3.0億円)



**EMCテストシステム**

米国EV自動車メーカーへ今期納入予定

(1.0億円)



# 5Gソリューションへの注力

5G無線通信キャプチャ解析装置

**米国Sanjole社製5G/LTE対応エアモニター**  
**モバイルキャリアからの受注増**



WaveJudge 5000

200Gbps対応の packets キャプチャ/解析システム

**自社製品「SYNESIS」**  
**大手通信会社から受注**



大容量 packets キャプチャ/解析システム  
「SYNESIS」ポータブル型200Gbps対応モデル

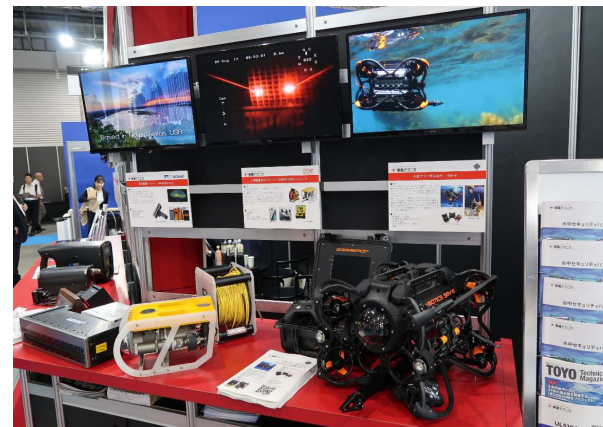


# 展示会①

## テロ対策特殊装備展

2019年10月2日 ~ 2019年10月4日

テロ対策監視システム、特殊装備品を出展



# 展示会②

## IIFES2019（旧SCF/計測展TOKYO）

2019年11月27日～2019年11月29日

予知保全/状態監視用 振動センサ、  
リアルタイムパケット解析ソリューション（VECブース内）を出展



# 技術情報配信

## 注目される最新技術動向を配信

<p><b>「つながるクルマ」のガイドライン: ISO/SAE21434 車載ソフトウェア開発者向け準拠のヒント</b></p> <p>技術コラム</p> 	<p>注目のコラム 4 技術コラム 2019/10/23 公開</p> <p><b>「つながるクルマ」のガイドライン: ISO/SAE 21434 車載ソフトウェア開発者向け準拠のヒント</b></p> <p>自動運転、コネクテッドの普及に伴い、サイバーセキュリティ対策が必須となります。対策として策定準備が進むISO/SAE 21434の概要と車載ソフトウェア開発者のための準拠のヒントを解説します。</p> <p>more</p>	<p><b>海外技術者のノウハウを紹介! 「車載イーサネット試験ソリューションセミナー」レポート</b></p> <p>コラム</p> 	<p>注目のコラム 1 コラム 2019/12/16 公開</p> <p><b>海外技術者のノウハウを紹介! 「車載イーサネット試験ソリューションセミナー」レポート</b></p> <p>2019年11月28日、東陽テクニカは「車載イーサネット試験ソリューションセミナー～通信プロトコルの検証から物理層の試験、システムテストまで、イーサネットの導入に不可欠な試験について解説～」を開催し、約50名のお客様にご参加いただきました。</p> <p>more</p>
<p><b>日本における自動運転の 現状とこれから～5Gに期待すること～</b></p> <p>インタビュー</p> 	<p>注目のコラム 3 インタビュー 2019/11/08 公開</p> <p><b>日本における自動運転の現状とこれから</b></p> <p>SIPの自動運転プログラムディレクターを務める葛巻清吾氏に、我が国における自動運転の取り組み状況や、5Gへの期待などについてお話を伺いました。</p> <p>more</p>	<p><b>メーカーCEOが語るLiDARの ニーズ拡大と今後の開発戦略</b></p> <p>インタビュー</p> 	<p>注目のコラム 2 インタビュー 2019/11/28 公開</p> <p><b>メーカーCEOが語る LiDARのニーズ拡大と今後の開発戦略</b></p> <p>自動運転開発に必須のLiDARシステム。ベルギーXenomatiX社のCEO Filip Geuens氏に、新製品の強みと今後の開発戦略について聞きました。</p> <p>more</p>

参照URL :

[https://www.toyo.co.jp/solution/car/?utm\\_source=solution\\_car&utm\\_medium=toyo\\_top\\_middle\\_bnr\\_pc&utm\\_campaign=mkt](https://www.toyo.co.jp/solution/car/?utm_source=solution_car&utm_medium=toyo_top_middle_bnr_pc&utm_campaign=mkt)



# 第61次南極地域観測隊に参加

## 昭和基地周辺海域の海図作成のための海底地形調査に従事 東陽テクニカ社員が第61次南極地域観測隊に参加



2019年12月24日

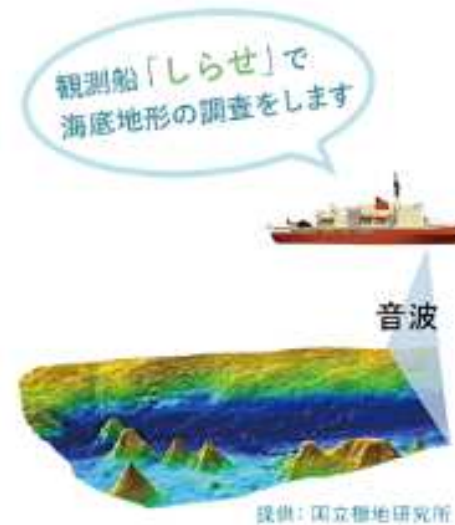
### トッテン氷河観測終了。

12月11日に今回の観測隊の第一目的地であるトッテン氷河海域に到着しました。12月21日までこの海域に留まり、たくさんのポイントで船やヘリコプターを駆使したさまざまな海洋観測を行いました。トッテン氷河はその氷が融けることで海水面上に大きな影響を与えることが懸念されている氷河です。そのため、この海域の水温や塩分、海流、氷の厚さなどを調査することには大きな意味があると考えられています。

私の仕事は、これらの調査における重要な基礎情報である海底地形データを、観測船「しらせ」に搭載されているソナーを駆使して正確かつ迅速に提供することです。探測や海底へのブイの設置など、海底地形の情報が特に重要な観測では、正確かつ精密な地形情報が不可欠です。調査の行われた海域では、精密な水深調査はこれまでほとんど行われておらず、調査地点の決定のために海底地形のデータはすぐに活用されました。

10日間天候にも恵まれ、ほとんど中断することなく順調に観測を続けることができました。また、「しらせ」にはたくさんの専門家の方が乗船しています。その専門は海流、海底の生物や堆積物、水中のプランクトンなどさまざまです。そして全員が自分の専門はもちろん、専門外である作業にも携わり、お互い協力しながらCTD<sup>®</sup>の操作や海水、海水、泥の採取、観測ブイの設置などを行います。チームワークがあってこそ、調査をやり遂げることができるのです。

現在は氷海域を抜け、一路昭和基地に向かって移動中です。



柴田成晴 隊員

2006年東陽テクニカ入社。海洋調査機器のエンジニアとして、水中音響計測器(マルチビーム測深機)や水中ロボットを担当。官公庁、大学、企業などの海洋調査をサポートするため、日本中、時には世界の海を飛び回っている。2019年、第61次南極地域観測隊隊員として、志願の南極大陸へ。

参照URL : [https://www.toyo.co.jp/social\\_contribution/special/01\\_jare.html](https://www.toyo.co.jp/social_contribution/special/01_jare.html)

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ  
経営企画部  
toyo-ir@toyo.co.jp